

第28回 3D教育研究会 開催レポート

ご挨拶

日頃より、株式会社 KA 教育の教育活動にご協力を頂き誠にありがとうございます。

この度『第28回 3D教育研究会』を開催することが出来ました。

『現代社会で求められる人材、資質・能力の育成～高等学校の「探究」と高大接続の可能性～』と題し、情報経営イノベーション専門職大学 イノベーションマネジメント局 局長の宮島徹雄先生による講演が行われました。開催時のレポートを作成致しましたので是非とも周囲の先生方へご回覧頂ければ幸いです。

21世紀を担う生徒達にとって、『3D教育プログラム』が、少しでもお役に立てればと願う次第でございます。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

令和5年3月吉日
株式会社 KA 教育
代表取締役 菊地 淳

第1部「講演会」

会長挨拶

3D教育研究会 会長 片倉 敦先生(順天中学校・高等学校 副校長)



皆様、こんにちは。入試がやっと終わって一段落ついた時に来ていただいて、本当にありがとうございます。

今日の講演は大事だと思っています。今まではどちらかと言うとコンテンツベースで何をやったかを大事にしておりましたが、そうではなく、どこまでやったかが大事なのではないでしょうか。これからはコンピテンシーベース、資質ベースで考えていかないと、世界のイノベーションが発達していく社会においては資質能力が問われる時代になってきたのではないのでしょうか。そのためにあるのが『探究』という学習なのです。今までのような評価ベースの授業では資質能力がなかなか育ちません。『探究学習』を通して資質能力を育てていかなければいけません。資質能力の分野は幅が広いのですが、今までと違うのは知識ベースではなく、社会性、学びに向かう力、というようなものまでも学力として捉えようという、時代になってきました。学力の幅が広がってきました。

今回の講演の先生には企業家的、探究的な学びについてお話しただけのではないかと思います。本校でも『探究学習』を行っています。他の学校様も『探究学習』を重視しつつあるように思います。『探究』と言いますが、アカデミックな内容、SDGs的な内容など幅が広いのです。企業家的なものも出てきて、教師が指導できない内容になってきます。そういう時に大学の先生の力をお借りしながらやっていく時代になったのかなと思います。

今回は情報経営イノベーション専門職大学 イノベーションマネジメント局 局長 宮島徹雄様にご講演いただきます。こういう機会に助言をいただけるような関係づくりをしていただきたいなと思っております。高大連携のつながりを持ち、高校だけでできない時には外の力を借りることができる、コミュニケーション能力のある人が教師になる時代を作っていく、今日はその第一歩ではないかと思います。先生、よろしくお願いいたします。

講演

『現代社会で求められる人材、資質・能力の育成
～高等学校の「探究」と高大接続の可能性～』

情報経営イノベーション専門職大学 イノベーションマネジメント局 局長 宮島 徹雄先生



情報経営イノベーション専門職大学 イノベーションマネジメント局 局長 宮島徹雄と申します。今日はよろしくお願いたします。

お題は『現代社会で求められる人材、資質・能力の育成～高等学校の「探究」と高大接続の可能性～また、その成功のために必要なことは?』ということでお話をさせていただきます。

宮島徹雄先生プロフィール

関西生まれ関西育ち。1967年大阪生まれ。5人家族。関西学院大学 経済学部(体育会ラグビー部) 1991年卒。息子は同志社大学グローバルコミュニケーション学部 北京大学留学。娘は武庫川女子大学 (中学より) 山東大学留学。

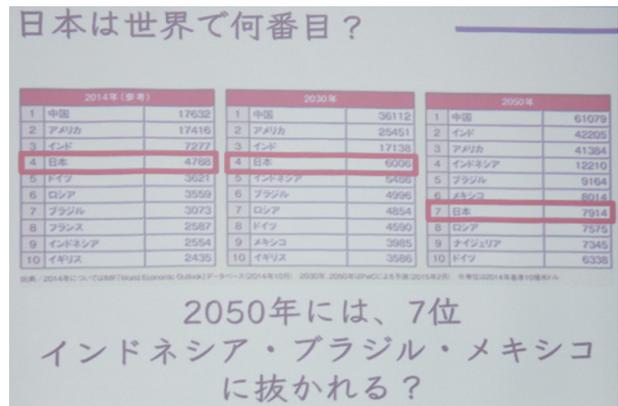
- 1991年 株式会社リクルート入社 以降11年間教育機関広報部在籍
- 2002年 住宅情報事業部異動
- 2006年 辻調グループへ転職 3校の副校長兼務
- 2016年 東証プライム市場上場のITベンチャーの(株)エアトリへ転職 ITオフショア開発事業部執行役員→現在アドバイザーへ
- 2017年 電子学園 専門職大学設立準備室長就任
- 2020年2月 学園の事業会社であるi株式会社代表取締役就任
- 2020年4月 iUの事務局長就任 学校法人電子学園 理事就任
- 2021年4月 アーバンデザインセンターすみだ 副センター長就任
- 2022年11月 iUZinvestment 代表パートナー就任

現在も上場、教育系ベンチャーの企業中心に顧問、アドバイザー等を複数務める。
ベンチャー投資も行っている。
自身のミッションは沢山の良い教育機関を創る。

今、ライフワークとライスワークがシンクロしていますので、メンタルコンディションが高い状況です。大変なこともあります、楽しくやっております。30年の間に一般の会社に勤めながら、専門学校の教育をして、ITベンチャーの役員をやらせていただいて、その後自ら大学を作り、来年4期目、完成年度を迎えます。

今、世界のどこで何が起きているのか？決して見落とせない世界紛争

世界はどうなっていますか？ということですが、非常に厳しい状況です。海外のことを理解しないと難しい時代です。そんな中、日本はどうでしょう。平成元年と平成30年の世界時価総額ランキング。平成元年30社中21社が日本の会社でしたが、平成30年には0社になりました。2021年はどうか。ベスト30に入っている会社は0社です。本当に日本の国力は落ちていきます。これは世界の購買力ランキングです。2014年日本は4位、30年も日本は4位。2050年に7位になってしまいます。2050年にフォーカスしていきたいと思えます。インドネシア、ブラジル、メキシコに抜かれます。2013年人口は中国が1位、日本は10位ですが、2050年になると日本は16位になります。2050年予想では1億人ですが、コロナ前の数字なのでもしかしたら2050年1億人を切っているのではないかと思います。日本の国力が下がっていくのが前提です。



Society 5.0

社会はどうなっていきますか？これはSociety 5.0です。サイバー空間とオリジナル空間を高度に融合させたシステムにより、経済社会の発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会。ITが全てのことを解決していくということです。人口が減っていく中でどうしていくかが問題です。



ムーンショット目標

皆さん、ムーンショット目標をご存知ですか？これは内閣府が立案したもので、ホームページで公開されています。3領域でこういった具体的な目標が出ています。この目標を達成するために政府の方針や予算がつきますので、2050年と考えることができると先生方の生徒たちが43～45くらいになります。働き盛りにこの目標が実現されているということなので、この時に彼らにどのような目標を持たせるかは教育上大事だと思います。



ムーンショット目標

全ての目標は「人々の幸福(Human Well-being)」の実現を目指し、掲げられています。将来の社会課題を解決するために、人々の幸福で豊かな暮らしの基盤となる以下の3つの領域から、具体的な9つの目標を決定しています。

これからの政府の政策はこのムーンショット目標をベースに組み立てられていくということです。

社会: 急進的イノベーションで少子高齢化時代を切り拓く。[課題: 少子高齢化、労働人口減少 等]

環境: 地球環境を回復させながら都市文明を発展させる。[課題: 地球温暖化、海洋プラスチック、資源の枯渇、環境保全と食料生産の両立 等]

経済: サイエンスとテクノロジーでフロンティアを開拓する。[課題: Society5.0実現のための計算需要増大、人類の活動領域拡大 等]

目標1. 2050年までに、人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会を実現

目標2. 2050年までに、超早期に疾患の予測・予防をすることができる社会を実現

目標3. 2050年までに、AIとロボットの共進化により、自ら学習・行動し人と共生するロボットを実現

目標4. 2050年までに、地球環境再生に向けた持続可能な資源循環を実現

目標5. 2050年までに、未利用の生物機能等のフル活用により、地球規模でムリ・ムダのない持続的な食料供給産業を創出

目標6. 2050年までに、経済・産業・安全保障を飛躍的に発展させる誤り耐性汎用量子コンピュータを実現

目標7. 2040年までに、主要な疾患を予防・克服し100歳まで健康不安なく人生を楽しむためのサステイナブルな医療・介護システムを実現

目標8. 2050年までに、激甚化しつつある台風や豪雨を制御し極端風水害の脅威から解放された安全安心な社会を実現

目標9. 2050年までに、こころの安らぎや活力を増大することで、精神的に豊かで躍動的な社会を実現

ChatGPT

私も今日のお題をChatGPTに入れてみました。私の考えとそんなに変わらないことをアップしてきます。共通テストでも7割くらいとった、アメリカの医療系の試験も通ったとか。2023年でこのくらいのテクノロジーですから、2050年だと我々も想像がつかないと思います。Instagramが100万人に達するのが75日。YouTubeが260日。Facebookが310日。それに対してChatGPTが100万人に達するのにかかった日数はわずか5日らしいです。こういう破壊的なテクノロジーは一瞬にして広がるというのをまざまざと見せつけられました。先生方の生徒たちがこういう社会を生きていくためにどういう能力をつけたらいいのか、非常に大事なのではないかと思います。ChatGPTは対話ができる、小説や脚本が書けるといことです。宿題

もChatGPTがそこそこのいい作文を書くというようなことが起こると思います。こうなるとコピーライターの仕事がなくなると思います。メールの返答なども、ChatGPTに書かせて人間がチェックして返すとメールのやり取りの手間も削減できます。これが自動になってくるとどうなるのでしょうか。

多様性を持った理解したグリット出来るグローバルなイノベーション人材

2023年にこういうことが起こっていて、2050年に活躍するのに必要な能力とは何なのだろうと考えました。多様性を持った、理解した、グリット出来る、グローバルなイノベーション人材。これに尽きるのではないかと考えております。世の中グローバルになってきているわけですから当然多様性も理解しないといけません。ホームセンターでも海外連携をとっています。コンビニエンスストアでも海外の留学生の方々がいらっしゃらなかったら全く成り立ちません。いかに海外の方の価値観を理解できるかということが大事だと思います。グローバル(グローバル+ローカル)なイノベーション人材、この力を持っていると私は2050年でもやっていけると思います。私はベンチャーの役員もやっていたので、いろいろ見てきました。大学に行って、1社で勤め上げる時代ではありません。私たちが親から言われていた価値観が、コロナもあって急速に変わってきています。そんな時に今までの知識型、言われたことだけを覚えている、言われたことだけをやる子というのは給料も安くなり、ブルーワーカーになるしかないと思います。その生き方が悪いとは思いません。人それぞれですが、できれば社会的に価値のある仕事をして欲しいと願います。従来型の考え方だと難しいと思います。

2050年に活躍するためには多様性を持った、理解した、グリット出来るグローバルなイノベーション人材が必要だと思います。グリットというのは、ガッツ持って自発的に最後までやる能力。これに尽きると思います。当たり前のことなのですが、なかなか最後までやり切る人物はいないと思います。能力の差はないと思います。ビジネスアイデアもそんなに斬新なものはないと思います。今、上場している企業さんでも斬新なアイデアを出しているところはないと思います。ベーシックなビジネスアイデアを他のものと掛け合わせています。

後はイノベーション人材です。Google社の前副社長のジョナサン・ローゼンバーグ氏が求める人材を次の5つのスキルを持つ人材と定義しています。

- ・分析思考能力
- ・コミュニケーション能力+SNS時代のデジタル
- ・新しい試みに対する意欲
- ・チームで仕事ができる能力
- ・情熱と指導力

SNS時代のデジタルコミュニケーション、インスタやTikTokをうまく使いこなせる能力があるなど、とても大事だと思います。算数ができる暗記ができるなどの能力は書かれていません。求められる能力が今は全く違うと思います。ここに書かれている能力を持っている子が2030年、2040年、2050年、活躍してしっか

grit (グリット) とは？

4つの要素から成り立ち、それぞれの頭文字を取って「grit」になります。

Guts (ガッツ)

：困難なことにも立ち向かう度胸

Resilience (レジリエンス)

：苦境にもめげずに立ち直る復元力

Initiative (イニシアチブ)

：自ら目標を見つけて取り組む自発性

Tenacity (テナシティ)

：最後までやり遂げる執念・チカラ

りお金をもらって社会貢献してくれるのではないかと考えています。

情報経営イノベーション専門職大学(iU)

こういう人材を作らなければならないので、私は大学を作りました。専門職大学は皆さんほとんどご存知ないと思いますので、ご説明させていただきたいと思います。1964年、前回のオリンピックの時に短期大学が

できていて、それ以来55年ぶりにできました新しい大学の種類です。世界で通用する学位が取れます。普通の大学と同じ4年です。大きく違うところは、授業は原則40名以下です。600時間以上のインターンシップに行きます。ほぼ4ヶ月のインターンシップに行かなければ卒業できないのです。業界・現場のプロの実務家教員が4割以上在籍している。現場で活躍している人を入れます。大学を作る上、さらにこの条件を加えているので、難しいのです。2022年4月現在で18校開学していますが、申請は50校です。普通の大学なら48校くらいは申請がOKです。教員を調達できずに開学を断念するところが多いのです。いい教育内容なのですが、作りにくくて、知名度がなく皆さんから認知されにくいので、なかなか生徒さんが集まっていない専門職大学が多いのです。全国18校中半数以上が定員割れしていると思います。なぜ専門職大学ができたのか?産業構造の変化や技術革命等に対応し、より質の高い職業教育の充実が求められていますが、従来の大学は学術研究を基にした教育を基本とする仕組みとなっていることから、企業等と連携して実践的な職業教育を行う新しいタイプの大学として、専門職大学制度ができました。従来の大学は研究しなさいと言っているわけです。外部からお金を持ってくるけれど、専門職大学は職業教育をやれと言われていたのですが、ご理解いただいて長い目で見ていただきたいです。

いUは「変化を楽しみ、自ら学び、革新を創造する」という教育理念のもと、学校法人電子学園が作った大学です。日本電子専門学校は東京・西新宿で3065名の学生が学ぶ日本を代表する工業系専門学校。理事長は東京の専門学校トップと全国の専門学校筆頭副会長をやっております。

開学3年目ですが、情報経営イノベーション学部情報経営イノベーション学科の単科の大学です。入学定員が200名。専門職大学、単科で一番多い定員です。昨年4月に217名入学。現在639名在籍しております。珍しく定員をオーバーしている大学です。非常に面白い生徒がいます。息子の学校見学に行ったら面白いから入ったという48歳の現役の看護師のお母さんがいます。お母さんはICTを医療分野に持ち込みたいそうです。66歳の役員をやっているお父さんも面白そうだからと入りました。学力の高い高校からも来られています。偏差値にはこだわっていません。大学に入ってグリットできる生徒が200人集まってくれたらいいと思っています。いい大学に受かったのに行かずに来ている子もいます。8割近い教員が現場で研究していたメンバーや企業しているメンバー。面白い授業を展開しています。非常に実践的です。立地が墨田区です。墨田区は23区で唯一大学がなかった区です。墨田区初の大学として開校しました。生徒は日本全国から来ています。一番多いのは70%の1都3県です。留学生は来年は30%くらい取りたいです。男子84%女子16%なので、女子も増やしたいです。新設の学校なのできれいです。墨田区にキャンパスを開設された千葉大学と、墨田区と、3社

概要：開学3年目

学部 学科	情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科	
入学 定員	200名 (3期生217名入学) 総学生数639名 *2022年5月1日現在	
専任 教員	28名 (内22名が実務家教員)	
立地	・墨田キャンパス 墨田区文花1-18-13 *押上駅・丸の内線 徒歩13分 *小村町駅 徒歩6分 ・竹芝サテライトオフィス 港区海岸1-7-1 東京オートシティ竹芝オフィスタワー8F *浜辺町駅 徒歩4分 *大門駅 徒歩7分	

包括提携しまししているんな取り組みをしています。アーバンデザインセンターすみだ (UDCすみだ) に3社と東武鉄道、UR都市機構、東京商工会議所、東京東信用金庫、墨田区公社などが参画して地域貢献しています。(選考事例は千葉の柏市。) 千葉大学は建築系の学部があるので墨田区の街づくりや都市計画のお手伝いを、我々 DXの大学なので中小企業のDXや小中学校のデジタル化のお手伝いをさせていただいております。小中学校では学生が先生方に教えたり、小中学生にプログラムを教えたりしています。昨年3月、テレビスタジオを作りました。吉本興業に貸し出しています。地域貢献の生放送をやっています。大学のキャンパス内にこういった施設を持っているのはうちの大学だけです。

学びの内容はビジネスが50%、ICTが30%、グローバルが20%です。グローバルは英語です。英語でプレゼンテーションができるコミュニケーションスキルを身につけます。ICTはプログラミングやシステム開発の基本的な知識やスキル、セキュリティ、IoT、AIなど幅広く学習します。ビジネスは50%です。その半分がマーケティング、マネジメント、ファイナンスなどを学ばす。その半分は4年間通して企業に挑戦します。残りの半分は企業と一緒にPBLを学びます。起業内で新規事業をするビジネスマネージャーや、企業内企業家がメインになるのではないかと考えています。実際の学生の希望は10%は大学院。20%は起業。70%は企画職希望の会社員です。70%の人がまだ何をやりたいか見つかっていない、起業はしたいが会社に入ってから見つけたいと言います。大体想定通りの子たちが育っているのではないかと思います。

1つ目の特徴は、今、500社くらいの企業と連携しています。インターンシップの派遣や教員の派遣やプロジェクトをやっています。理化学研究所とAIがみんなの校歌を作る。BSよしもと株式会社と新たな教育研究拠点を開設。京丹後市デジタル戦略策定プロジェクト、これは学生が調べ物をやり、コンサルタントがまとめて、学生がプレゼンをします。他には放送局のeスポーツの企画を運営協力したり、DXの人材育成サービスの協同講座開設をやっています。

2つ目の特徴は、客員700名にいろんな形でサポートしてもらっています。

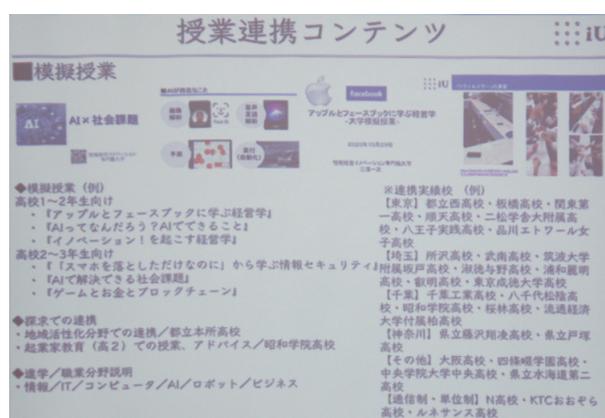
3つ目の特徴は、在学中に起業をします。授業でやった内容か、自分のやりたい内容をプレゼンしてもらいます。学生はお金を持っていませんので、事業会社かファンドから出資を実際に行っています。6社の出資実績があります。大学の住所で起業しているのは16社です。オフィスも大学内に構えていて、学校内で起業しています。今一番面白いのは、ナインバースと言う会社。今月は6000万資金調達しました。2年生の学生ですが、今、休学しています。忙しすぎて授業にでれないということです。来年は億単位の調達をするそうです。VRのアバターの着替えをやっています。投資家の方に非常に気に入られて、上場したいと言われてます。後、推しメーター。昨年の11月に1千数百万調達しました。同級



生5人くらいで起業して、おじいちゃんの家を2階に全員住み込んで、史上最年少の上場を狙うと言っています。この会社に出資をしています。こういった出資している会社からのキックバックがありますので、それを学生の奨学金にしたいと考えています。そして将来的に学費をゼロにできればいいなと思っています。徳島の神山高専が100億円集めてその運用資金で学費をゼロにしている成功事例があります。親の経済力で大学に行けない人が我が校でチャレンジしてもらって、私たちに恩返しするのではなく、恩送りしてもらったらいいいのではないかと考えています。

4つ目の特徴が、インターンシップです。3年生が6月から11月の4ヶ月間インターンシップに行きます。ご好評いただいています。40社近い会社から内定をいただいております。内定してインターンが続いている学生もいるので、早期離職がないのではないかと考えています。インターンを採用したい会社は200社くらいあります。そこから応募していただいて、そのうちの100社にマッチングしています。来年から無償になりますので、4ヶ月IUの学生を使えると言うのは企業にとってメリットだと思います。

IU大学の名前を知っていただきたいので、かなり積極的に高大接続をやっています。学生にとってはとてもいい機会になると思います。スマホを落とすただけなのにセキュリティの勉強をしたり、経営学、ビジネス経営、ICT、英語、キャリア教育いろいろな授業をしています。校内の教員の方だけでカリキュラムを作るのは非常に無理があると思います。



高等学校における探求の問題点は?

大学や企業に丸投げ、既存の教育とリンクしない、企業や大学が提供するカリキュラムを教員が本当に理解していない、興味がないと言う場合が困ります。教員に探求授業科目開発する時間がないのだと思います。上位大学と接続がしていないので入試と連動しづらいと言う部分があるのではないかと考えています。「教員、もっと頑張れ!」「探究学習は生徒のためになる!」「地域との協働には意味がある!」と鼓舞するだけでは現場は限界かもしれません。

大学から見た高大接続授業は?

いい授業はもちろん実施したいと思っています。教員の負担は減らしたい、派遣出来るいい教員が少ない。入学者を確保したいです。複数校で共同実施出来れば教員の負担が減らせるのではないかと考えています。オンラインなら負担も減りますのでうまく使っていただければいいのではないかと考えています。できれば入試と連動した授業も実施したいと思っています。お金はないのは分かりますが、交通費はご検討いただきたいです。とはいえ高校の方が探究学習が進んでいる場合もあります。

高大接続授業を成功させるためには

高大接続授業を成功させるためには、探究学習の意味を理解して生徒に授業に臨んでいただきたいと思えます。大学・企業・役所等、外部の力を高校主体でうまく使っていただければいいのではないかと考えています。大学・企業・役所等、外部の力を高校主体でうまく使っていただければいいのではないかと考えています。

ます。実践の場を与えて最後まで生徒に自主的にやり切らせる、そして失敗することが接続授業をする上で大事なんじゃないかと思います。

今後、学校に求められているもの

学校改革はマネジメント改革ではないかと思います。情報共有のスピードアップ、フラット化。意思決定のスピードアップ。現場への権限移譲。風通しのいい職場。新しい事にトライする校風。旧来の当たり前の見直し。社会の動きと連動する、先を見据えた教育改革をしないと学校自体が成功していかないのではないかと思います。私もこういったことを日々意識して大学をやっています。生徒が減っていきますので、いろんなことが求められてきます。

今後、教員(ミドルマネージャー)に求められるスキルとは？

一般教員のマネジメント能力。今後教え方も非常に難しくなってくると思います。学びのテクノロジーが侵食してますので、職人技の教育ノウハウが難しくなってきます。教員に求められるのが、スタディサプリなどのツールをうまく使いこなして、先生方の負荷を減らして、学生のメンタリング、モチベーションアップなどの能力が求められるのではないかと思います。そして外部とのつながり、世の中の動きの理解。現場の教員をマネジメントされている方に求められている能力なんじゃないかと思います。これができると学校が活性化して、良い教育ができると思います。

いちばん大切なのは生徒募集です。先生方に頑張っていたきたいと思います。我々も必死で学生募集をしております。高校がかなり厳しくなっています。通信制高校、フリースクールが増えています。ミドルマネージャー、一般教員のスキルアップを目指していかないと闘っていけないと思います。

大学の悩み事

最近の大学の悩み事をお話ししますと、やっぱり一番は学生募集。外部資金の獲得。学校法人ガバナンス改革。教学マネジメント。23区問題。補助金問題、定員割れ8割を3年続くと補助金が出ません。高校と同じような悩みを抱えています。

以上、ご清聴ありがとうございました。

* * *

関西弁を交えながら楽しくお話ししてくださいました。大変なこともたくさんおありだと思いますが、楽しんで目標に向かって力強く頑張ってる姿が印象でした。

質疑応答

進行 3D教育研究会 副会長 樋口 元先生(京華商業高等学校 校長)

Q 朋優学院高等学校 田中 寛人先生

グリット、と言うワードは気になっていて育てたいと思っておりますが、難しいと感じることがあります。素材としてそういう子の場合はいいのですが、行けそうでまだやりきれない子をどう育てていけばいいのか？それと探究の意味を理解させるというところで、すぐに入ってくる子と、入試と関係ないと言うところから全然入っていかない子に大きく分かれてしまいます。伝わらない子にどうやっていけばいいのでしょうか？

A 宮島 徹雄先生

グリットは時間がかかります。寄り添って諦めずに。いつ爆発するか分からないので、信じて伴走してあげることが一番大事なのではないかと思っております。探究の意味を理解するという部分で言いますと、なかなかすぐ理解出来ないと思っておりますので、言い続けるしかないと思っております。生徒の耳に入る、受け入れることができる時期があると思っております。22の子でも1年くらいかかりました。17,18の子ですぐ入ってくる子は少ないと思っております。

Q ドルトン東京学園中等部・高等部 高野 淳一先生

将来的に起業する人にとっても、起業しない人にとっても、起業する力、そのための学びはどう役立ちますか？

A 宮島 徹雄先生

おっしゃる通り、起業はあくまで手段だと思っております。大事なのは自分で考えて事業を組み立て、失敗すること。チャレンジすることで教えられていないことをトライすることが一番大事なんじゃないかと思っております。それを身に付けてくれればどこの企業に行っても役に立つと思っております。その思い入れがあって私はこのカリキュラムにしました。



京華商業高等学校 樋口 元先生

私自身も学校の教員であっても、アントプレナーシップが必要だと思います。学園の運営にしても、クラスの運営にしても、学校行事の運営にしても、一人ひとりの先生方が企業家精神のようなものは持って、組織の中で動くのですが、自分の学年はこう育てたい、こうありたいという気持ちがあって、そこで新しい教育、目の前にいる生徒たちへの教育ができていくのかなと思います。以前、企業家の先生のフォーラムの方にお越し頂いて、授業をやっていただいたことがありました。これは学校の教員だけではなく、いろんな企業に就職されているんな部署にいても同じだろうと思います。

Q 朋優学院高等学校 小野間 大先生

本校は偏差値の高い大学への進学が年々伸びていることが評価されて、募集も増えています。大手企業に勤めて安泰という社会は終わっているにも関わらず、未だ生徒・保護者の多くが求めているということが事実としてあります。私たちもそうではないということを発信はしているのですが、本校の募集においてもそこが難しいところです。ママブロックをどうやって解決するかということをお聞きしたいです。

A 宮島 徹雄先生

その時はお母さん、そんな時代ではないですよ。お気持ちも分かりますが、それで息子さんは本当に幸せですか？と言います。最後は選んでくださいと言いますが、現状を話すと理解してくれる親御さんは非常に多いです。教職員総動員で個人面談をするのがいいのではないかと思います。

Q 株式会社リクルート 辻本 裕介様

私どもがやらせていただいているのは中学校・高等学校の先生方に対してのICT化の支援です。先生方の意思決定のスピード感が法人と全然違ったり、組織系統が全然違います。我々民間企業として接する上で、こういったことが企業に求められているのか？学校の理想の実現に貢献したいという思いはあるのですが、民間企業として接する意味は？お伺いしたいです。



**A 宮島 徹雄先生**

ご自身で自信のあるプロダクトを全部の学校に入れることが使命なのではないでしょうか。プロダクトを信じて徹底的に売り込めばいいと思います。成功事例を横展開して先生方の負荷を下げる提案をやり切るといいと思います。

Q 朋優学院高等学校 佐山 周先生

デジタルツールの発達により、生徒たちの思考力やイメージする能力が落ちている気がします。それを克服し、伸ばしていくにはどうすればいいでしょうか？アドバイスをいただきたいです。

A 宮島 徹雄先生

生徒たちの能力は昔に比べて落ちていると思います。頑張って勉強することとか、一つのことをやり切ることが、極めて少ないのではないのでしょうか。あまりにも世の中便利になりすぎています。夏休みの宿題をgoogleがやってくれるそうです。仕方がないです。私たちの頃は正確に記憶して、それを再現するという努力を入試で求められましたが、今は違ってきています。その能力を伸ばすしかないのではないのでしょうか。克服するには、チャンスを与えて実践の場に生徒を出してあげることだと思います。今の学生はインターネットで調べることや、まとめること、プレゼンもすごくうまいです。今の子は人からお金をもらって何かするというのを、やっていません。それをやっている子とやっていない子は相当違うと思います。先生方が工夫していかに生徒にリアルの場を体験させるかが先生方に求められていることではないでしょうか。実践の場に引き出してください。失敗させてください。

アンケート集計結果報告

進 行 3D教育研究会 副会長 高野 淳一先生
(ドルトン東京学園中等部・高等部 入試広報部主任)

高野 淳一先生から、教員の方のアンケートの集計結果報告がありました。

参加者全員での記念撮影



出来る・大丈夫・大成功

3D教育研究会

2023.2.18 第28回 3D教育研究会 in 東京ガーデンパレス

株式会社KA教育

〒173-0012

東京都板橋区大和町12-12

03 - 6784 - 7675